

3 R・資源循環推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年 次 報 告 書

令和6年度版（2024年度版）



令和7年6月

 3 R・資源循環推進フォーラム

はじめに

20世紀に本格化した大量生産・大量消費型の経済は、大量廃棄社会を生みだし、物質循環を阻害するだけでなく気候変動問題を加速させています。そればかりでなく、世界の人口増加、経済発展成長等に伴う資源需要の拡大と相まって、天然資源の枯渇、大規模な資源採取による生物多様性の破壊など、様々な問題を引き起こしています。

令和6年5月に閣議決定した第六次環境基本計画は、気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの危機への強い「危機感」を露わにしています。そして、「現代文明は持続可能ではなく転換が不可避であり、化石燃料等の地下資源に過度に依存し物質的な豊かさに重きを置いた「線形・規格大量生産型の経済社会システム」から、地上資源を基調とする、無形の価値、心の豊かさをも重視した「循環・高付加価値型の経済社会システム」への転換が必要です。」と述べています。また、我が国として、再生材の質と量の確保を通じて資源循環の産業競争力を強化することが重要なことから、令和6年5月には、効率的な再資源化の実施、再資源化の生産性の向上、温室効果ガスの排出量の削減等を目的とする「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律」が成立しました。

さらに、中央環境審議会循環型社会部会が審議してきた「第五次循環型社会形成推進基本計画」は、令和6年8月に閣議決定されました。この計画では、循環経済への移行を関係者が一丸となって取り組むべき重要な政策課題と捉え、循環型社会形成に向けた政府全体の政策を取りまとめた国家戦略として策定されています。動静脈産業が連携してライフサイクル全体で徹底的な資源循環を目指し、地域の循環システムを活用した地方創生や資源循環・廃棄物管理基盤の強靱化などが盛り込まれている点は注目に値します。

以上に加え、政府に設置された「循環経済に関する関係閣僚会議」では、令和6年12月に「循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行加速化パッケージ」が決定され、循環経済の取組が関係各府省において積極的に進められています。

このように3R、資源循環、循環経済を巡る状況が目まぐるしく変化するなか、当フォーラムは、令和6年4月に、組織の名称を「3R活動推進フォーラム」から「3R・資源循環推進フォーラム」に改め、市民や事業者の皆様、行政、研究機関が一体となったプラットフォーム機能を一層強化することを決意致しました。そして、これまで以上に、環境省をはじめとする府省や、会員の皆様との連携を強化し、幅広いステークホルダーが情報共有、相互連携できることを目指すことといたしました。

こうしたプラットフォーム機能を発展・拡充するために、従来の発想を超えた新たな取組などを行っているところで、引き続き一層のご支援、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

本報告書は、令和6年度の3R・資源循環推進フォーラムの事業活動等について取りまとめたもので、会員の皆様をはじめ3R・資源循環に係る関係者の皆様の今後の業務の参考になれば幸いです。

令和7年6月
3R・資源循環推進フォーラム 会長 細田 衛士

目次

I 組織運営	1
1. 理事会・総会	1
2. 企画・運営委員会	2
II 令和6年度事業概要	4
1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和6年度3R推進企画運營業務)	4
2. 連携・協働事業	23
3. 実務講座・相談事業	32
4. 広報普及事業	36
5. 令和6年度収支決算	43
【参考】 3R・資源循環推進フォーラムについて	46
1. 「3R・資源循環推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～	46
2. 3R・資源循環推進フォーラム事業活動	47
3. 3R活動関係年表	48
4. 令和6年度事業年間スケジュール	53
5. 3R・資源循環推進フォーラム規約等 資料	55
6. 役員一覧	60
7. 企画・運営委員会委員一覧	61
8. 会員一覧	62

I 組織運営

1. 理事会・総会

(1) 第20回 理事会・総会 開催概要

第20回理事会及び総会は、2024年6月17日(月)にAP虎ノ門 11階 A会議室(東京都港区西新橋1-6-15)とオンラインのハイブリット開催形式で、合同で開催された。関山 聡 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐をはじめ関係各省の出席の下開催され、令和5年度事業報告(案)、令和6年度事業計画(案)などの議案を承認するとともに、理事及び監事、会長、副会長及び専任理事、顧問を選出した。

○細田衛士 3R・資源循環推進フォーラム会長

- ・本日はご多忙の中、理事会・総会にお集りいただき、出席者をはじめ会員の皆様に感謝する。
- ・「3R活動推進フォーラム」は、会員の皆様の議決をいただき、本年4月に組織の名称を「3R・資源循環推進フォーラム」に改めた。市民や事業者の皆様、行政、研究機関が一体となったプラットフォーム機能を強化して、これまで以上に、環境省をはじめとする府省や、会員の皆様との連携を強化し、幅広いステークホルダーが情報共有、相互連携できることを目指していく。従来 of 発想を超えた新たな取組などを行っていくので、一層のご支援、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。
- ・当フォーラムの会員は地方自治体会員と民間団体会員で構成されている。昨年度、地方自治体2団体と民間2団体が、また、この4月に地方自治体1団体が加入し、現在地方自治体会員は80会員、民間団体会員は66会員、あわせて146会員を擁する団体となった。環境省からも新たに設立された団体などに加入の呼びかけをいただき、改めて御礼申し上げます。当フォーラムも引き続き入会を推進していく。
- ・当フォーラムでは、「3R推進全国大会」の開催のほか「3R促進ポスターコンクール」の実施などを中心に3R活動の普及啓発に努めている。毎年、環境省、開催地である地方自治体及び当フォーラムが連携して「3R推進全国大会」を開催しているが、昨年度の第17回3R推進全国大会は、10月25日(水)に秋田県で4年ぶりにお客様をお招きして開催した。今年度の第18回大会は、10月下旬に埼玉県さいたま市の「プラザノース」で、環境省、環境省関東地方環境事務所、埼玉県、当フォーラムの主催により開催する。今年度も皆様にご協力をいただき成功させて参りたい。
- ・会員団体の皆様との連携・協働事業については、昨年度はセミナー等を11回開催した。一部のセミナーではWEBも活用して実施するなど工夫し、多くの方にご参加いただいた。昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、着実な運営を図ることができた。今年度は新規事業として「3R・資源循環先進事例研究発表会」や「特別セミナー」などを検討している。
- ・本日は、事業報告・決算及び事業計画・予算などについてご審議いただきたい。

○関山聡 環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐(室長代理)

- ・環境省では、循環型社会部会において昨年11月から第5次循環型社会推進基本計画を審議している。まさに先週の6月11日に審議があり、これから取りまとめ、最終的な調整というところ。この循環基本計画では、循環経済への移行を国家戦略として、地域の循環システムの構築、さらに地方創生の実現

を柱のひとつに位置づけている。

その中で、全国の自治体・団体を会員として持つ、この3R活動推進フォーラムの名称が4月1日に3R・資源循環推進フォーラムと変わり、ますますのご活躍が期待されているところ、環境省としても皆様と協力して、さらに地域への貢献を進めていきたいと考えている。本日の理事会・総会が盛大に開催されることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

(2) 来賓（敬称略）（敬称略、[オ] はオンラインにてご出席）

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐	関山聡
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室	平井政孝
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐	岡本敏男 [オ]
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室	磯部佳孝 [オ]
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 企画調整係長	水上智弘
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課課長補佐	本村信一郎
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課企画第二係	田中幹

(3) 出席

○役員

19名中 会場出席者8名、オンライン出席者1名 欠席者10名のうち9名が委任状を提出

○会員

146会員中 会場出席17会員、オンライン出席者34会員および欠席者のうち65会員が委任状を提出

(4) 議事

第1号議案 令和5年度事業報告（案）及び収支決算（案）

第2号議案 令和6年度事業計画及び収支決算（案）

第3号議案 理事及び監事の選任（案）

第4号議案 会長、副会長及び専任理事の選任（案）

第5号議案 顧問の選任（案）

第6号議案 3R・資源循環推進フォーラムのロゴマークの作成について

(5) その他

次期第18回3R推進全国大会開催地である埼玉県の尾崎範子 埼玉県環境部資源循環課課長による挨拶が行われた。

2. 企画・運営委員会

(1) 令和6年度第1回

ア. 開催概要

令和6年度企画・運営委員会（第1回）を公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室とオンラインのハイブリット形式で開催した。委員会では、環境省をはじめ関係省庁に出席いただき、今年度新た

な事業等について説明し、意見交換を行った。

開催日時： 令和6年7月31日（水）10：30～12：00

開催場所： 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 8階大会議室 / オンライン (Microsoft Teams)

開催内容：

開会 3R・資源循環推進フォーラム事務局 柳澤 高志

挨拶 3R・資源循環推進フォーラム副会長 梶原 成元

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 近藤 亮太 氏

委員・オブザーバー紹介

議事 鬼沢委員長

1. ホームページを通じたプラットフォーム機能拡充について（案）について
2. 3R・資源循環先進事例研究発表会の開催について（案）
3. 3R・資源循環推進フォーラムのロゴマークの作成に係る投票結果について
4. 第18回3R推進全国大会の開催について
5. 3R・資源循環推進フォーラム事業展開に関するアンケートの結果について

閉会 3R・資源循環推進フォーラム事務局 柳澤 高志

イ. 出席

18名中 会場出席者6名、オンライン出席者7名、欠席5名

(2) 令和6年度第2回

ア. 開催概要

令和6年度企画・運営委員会（第2回）を公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室とオンラインのハイブリット形式において開催した。委員会では、環境省をはじめ関係省庁に出席いただき、令和6年度の事業報告（案）、令和7年度の事業計画（案）及び収支決算（案）について説明し、意見交換を行った。

開催日時： 令和7年3月26日（水）10：30～12：00

開催場所： 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 8階大会議室 / オンライン (Microsoft Teams)

開催内容：

開会 3R・資源循環推進フォーラム事務局 柳澤 高志

挨拶 3R・資源循環推進フォーラム副会長 梶原 成元

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 近藤 亮太 氏

委員・オブザーバー紹介

議事 鬼沢委員長

1. 令和6年度事業報告（案）
2. 令和7年度事業計画（案）
3. 令和7年度収支予算書（案）

閉会 3R・資源循環推進フォーラム事務局 柳澤 高志

イ. 出席

18名中 会場出席者7名、オンライン出席者8名、欠席3名

II 令和6年度事業概要

3R・資源循環推進フォーラムは、循環型社会の形成・3R推進のため、環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室等の関係者のご指導のもと、国内における普及啓発事業を実施している。

令和6年度は環境省や埼玉県等と連携して第18回3R推進全国大会を埼玉県で開催した。また、各種セミナー・シンポジウムを全国各地で12回開催したのをはじめ、環境省等と3R促進ポスターコンクールなどを実施したほか、環境美化活動への参加、メールマガジンや事務局通信の配信等の広報・普及事業を実施した。

1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和6年度3R推進企画運営業務)

(1) 第18回3R推進全国大会

環境省、3R・資源循環推進フォーラムの主催による「第18回3R推進全国大会」は、10月24日(木)13時から、さいたま市プラザノースで開催した。

第I部の大会式典では、循環型社会形成推進功労者、3R促進ポスターコンクール最優秀賞の表彰を行った。

第II部の記念シンポジウムでは、「サーキュラーエコノミーによる地域活性化と質の高い暮らしの実現に向けて ～目指すべき循環型社会の将来像～」をテーマに、今後の3R・資源循環の推進方策に関する理解を深めるため基調講演、特別講演、事例報告及びパネルディスカッションを行った。

関連イベントとして、イグナイトステージ(参加者交流のための特設ステージ)、幅広い関係者による3R・循環型社会形成の取組を紹介する展示コーナー、施設見学会を実施した。

また、大会終了後に第18回3R推進全国大会の紹介ウェブサイト(3R・資源循環推進フォーラムホームページ)からYouTube動画でアーカイブ配信を行った。

開催日時：2024年10月24日(木)13:00~17:00

開催拠点：さいたま市プラザノース ホール(埼玉県さいたま市北区宮原町1丁目852番地1)

開催主体：第18回3R推進全国大会実行委員会

(環境省、環境省関東地方環境事務所、埼玉県、3R・資源循環推進フォーラム)

参加者：455名(現地参加者333名 / ライブ配信申込者122名)



プログラム：(敬称略)

◇第Ⅰ部 大会式典 13:00～14:00

- ・開会挨拶 主催者挨拶(国定環境大臣政務官、大野埼玉県知事、埼玉3R・資源循環推進フォーラム副会長)
- ・来賓挨拶(松澤埼玉県議会副議長)
- ・表彰式
循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰
- ・記念撮影

◇第Ⅱ部 記念シンポジウム 14:00～17:00

「サーキュラーエコノミーによる地域活性化と質の高い暮らしの実現に向けて ～目指すべき循環型社会の将来像～」

- ・基調講演
「サーキュラーエコノミーの達成に向けた各主体の役割」
3R・資源循環推進フォーラム会長、東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、慶應義塾大学名誉教授 中部大学名誉教授
細田 衛士



- ・特別講演
「埼玉県が目指すサーキュラーエコノミー～持続的な発展に向けた環境と経済の両立～」
埼玉県知事 大野 元裕

- ・事例報告
「浦和レッズSDGsサーキュラーエコノミーの取組」
浦和レッドダイヤモンズ株式会社 コーポレート本部スタジアム運営担当 早川 拓海

- ・パネルディスカッション
「地域におけるサーキュラーエコノミーの推進と実践 ～持続可能な未来への道筋～」

(コーディネーター) 3R・資源循環推進フォーラム副会長、ジャーナリスト、環境カウンセラー、
全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会会長 崎田 裕子

(パネリスト)

大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 環境ビジネス推進部 部長 西村 知子
株式会社木下フレンド 代表取締役社長 木下 公次
株式会社 ECOMMIT 取締役 CSO 坂野 晶
国立環境研究所資源循環社会システム研究室 室長 田崎 智宏

- ・閉会挨拶 3R・資源循環推進フォーラム副会長 梶原 成元



◇関連イベント

3 R推進展示コーナー

- ・令和6年度3 R促進ポスターコンクール最優秀賞作品展示コーナー
最優秀賞に輝いた小中学生の作品4点の原画の展示が行われた。



- ・循環型社会形成に関連する先進的な取組の展示コーナー

循環型社会形成に関連する先進的な取組を進められている団体活動を公募し、紹介するコーナーにおいて、主催者をはじめ、自治体、関連団体等 39 団体の展示が行われた。



※順不同

- 環境省
- 埼玉県
- 3 R・資源循環推進フォーラム/公益財団法人廃棄物・3 R研究財団
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- NP0 法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- 3 R推進団体連絡会
- ガラスびん3 R促進協議会
- PETボトルリサイクル推進協議会
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- スチール缶リサイクル協会
- アルミ缶リサイクル協会
- 飲料用紙容器リサイクル協議会
- 段ボールリサイクル協議会
- 公益財団法人埼玉県産業振興公社
- 公益財団法人東京都環境公社
- ウム・ヴェルト株式会社
- 株式会社木下フレンド
- 三郷市
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社E C O M M I T
- 一般社団法人全国容器循環協議会
- 公益社団法人食品容器環境美化協会
- 株式会社パイロットコーポレーション
- アミアズ株式会社/一般社団法人 withal
- クリエイトラボ
- 天城屋株式会社
- 明治安田生命保険相互会社埼玉本部
- 株式会社ティービーエム
- ケイワート・サイエンス株式会社
- オリックス資源循環株式会社
- 新和環境株式会社
- 日榮新化株式会社
- 株式会社ショーモン
- 東武商事株式会社
- 株式会社吉川油脂
- 久保井塗装株式会社

○新井資材株式会社

・イグナイトステージ(参加者交流会における特設ステージ) 10月24日(木) 17:15~18:30

3R推進展示コーナーに連動し、今大会に参加いただいた皆様の交流の一層の促進を目指し、同会場で「イグナイトステージ」を開催した。

全国大会第2部終了後、同ステージにて、企業、団体の取組を発表いただき、3R推進展示コーナーを訪れた大会参加者に熱意ある発表をご覧いただくとともに、参加者相互の交流、ビジネスマッチングの一助とすることができた。



○司会 環境カウンセラー 関根 久仁子 氏

○発表者

1 挨拶

サーキュラーエコノミー推進センター埼玉 公益財団法人埼玉県産業振興公社新産業振興部長 柳沢 禎人 氏

2 「東京サーキュラーエコノミー推進センターの概要・主な取組の紹介」

公益財団法人東京都環境公社環境共生部 東京サーキュラーエコノミー推進センター普及推進チーム 野末 裕子 氏

3 「再生素材を活用したデザインソリューション」

株式会社DNPエスピーイノベーション SP新規事業開発本部事業開発部部长 村上 浩 氏

4 「排水油脂&油泥から生み出すブラウングリースのアップサイクル」

株式会社ティービーエム執行役員事業企画部長 東 誠悟 氏

5 「アダプト・プログラム普及推進について」

公益社団法人食品容器環境美化協会事務局長 佐藤 克彦 氏

6 「生ごみ処理機による持続可能な社会構築」

天城屋株式会社代表取締役 石井 靖彦 氏

・施設見学会 10月25日(金) 9:00~12:35

本大会の関連イベントとして、大会翌日の10月25日(金)午前中に施設見学会を行った。午前9時に熊谷駅をバス2台で出発し、2グループ(Aコース、Bコース)に分かれて埼玉県大里郡寄居町所在の、公共関与による全国初めての総合的「資源循環型モデル施設」である「彩の国資源循環工場」内にある民間リサイクル施設を視察した。参加者は合わせて45名だった。

Aコース

①オリックス資源循環株式会社 寄居バイオガスプラント

廃棄物系バイオマスによる国内最大規模の乾式メタン発酵バイオガス発電施設を見学



②ツネイシカムテックス株式会社 埼玉工場

焼却灰の焼成処理による無害化と人工砂へのリサイクルを行う施設を見学



B コース

①株式会社エコ計画 寄居エコスペース

24品目に及ぶ廃棄物を受け入れ、再利用率95%を目指す総合リサイクル施設を見学



②株式会社ウム・ヴェルト・ジャパン 寄居工場

廃蛍光管や県内初の廃太陽光パネル等のリサイクル施設を見学



(2) 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

循環型社会形成推進功労者を表彰する制度は、廃棄物の発生量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体を表彰し、その功績をたたえとともに、循環型社会の形成の推進に資することを目的に、毎年環境省が実施しているもので、令和6年度は全国で3R活動優良企業4件6企業が受賞した。表彰式は第18回3R推進全国大会式典の席で行われた。（結果については表1）

なお、3R・資源循環推進フォーラムでは平成18年度から環境省に対して推薦を行っているが、令和6年度は3R・資源循環推進フォーラムから北九州環境プラントサービス株式会社、豊田環境サービス株式会社、株式会社エコクリエイト大阪の推薦を行った。



| 3 R 活動優良企業

推薦者	氏名等	功績内容
埼玉県	ウム・ヴェルト株式会社	食品企業の製造工場から廃棄された食品ロスを回収し、提携リサイクル施設で飼料や肥料に加工。平成26年には農業生産法人を設立し、リサイクル肥料を使用した農産物の生産を開始。平成30年には養豚業を開始し、食品残渣を給餌した豚を生産・出荷する等、6次産業+リサイクルを融合させた「食品リサイクルループ」を実現することで、独自の7次産業化を目指す。 また汚れが付着した廃プラスチックのポリ袋も、石炭の代替燃料となる独自の「燃料化リサイクル」を行いCO2の削減に貢献。更に収集運搬においても計量器付き大型車両で高効率なルート回収を行い、燃料使用量と併せてCO2排出量も削減し、脱炭素社会への貢献に向けて取組んでいる。
福岡県	株式会社新菱	太陽光パネルの大量廃棄時代を見据え、平成22年からNEDO、環境省実証事業で研究開発を行い、独自の熱分解方式と高度選別の組み合わせによる高度リサイクル技術を開発。令和5年にはリサイクルプラントを設置し、事業を開始。アルミ枠、ガラス板、銅線、シリコンセル等を回収し、廃棄物ゼロを実現、ガラスは板ガラス、アルミ、銅、銀等の金属は精錬用原料として用途開発を行い、資源循環に貢献している。また、廃棄パネルのうち使用可能なパネルのリユースへの取り組みを推進している。
福岡県	株式会社キューヘン	柱上変圧器の修理又は廃棄時に発生する使用済み絶縁油の再生処理技術開発を平成28年から開始し、令和3年には事業化。再度絶縁油として使用するための低負荷・低コストなリサイクルシステムを構築し、福岡県のみならず九州全域から回収している。 令和5年度までの実績は約1,500キロリットルとなり、約27,000台の柱上変圧器にリサイクル絶縁油を適用している。
3 R・資源循環推進フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> 北九州環境プラントサービス株式会社 豊田環境サービス株式会社 株式会社エコクリエイト大阪 	3社は、平成16年以降、中間貯蔵・環境安全事業株式会社が設置する北九州、豊田、大阪の各PCB処理事業所において、処理施設を運転管理し、高濃度PCB廃棄物の処理を行った。その処理方式は、商用のものとしてはいずれも日本初のものであり、様々な困難があったが、安全な操業と廃棄物の確実な処理を見事に達成した。3社での高濃度PCB廃棄物の処理量は、変圧器で約8千台、コンデンサーで約22万台、安定器等で約1万トンと大量であり、3社の存在なくして処理完了は成しえなかった。

・表彰数の推移

年度	個人	団体	企業	合計
令和6年度			4	4
令和5年度	1	5	5	11
令和4年度	0	4	6	10
令和3年度	0	2	5	7
令和2年度	0	7	6	13
令和元年度	0	6	6	12
平成30年度	0	3	7	10
平成29年度	1	5	10	16
平成28年度	1	11	7	19
平成27年度	2	5	14	21
平成26年度	1	8	8	17
平成25年度	4	7	10	21
平成24年度	4	10	20	34
平成23年度	5	11	13	29
平成22年度	7	9	20	36
平成21年度	5	12	21	38
平成20年度	6	15	28	49
平成19年度	10	13	18	41
平成18年度	6	6	7	19

(3) 3R促進ポスターコンクールの実施

環境省と3R・資源循環推進フォーラムでは、循環型社会の実現に向けて、毎年「3R促進ポスターコンクール」を実施している。公募は、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の部の4部門で行われ、令和6年度3R促進ポスターコンクールには、全国から合計4,630点の応募があった。環境省立ち合いのもと第一次審査会で選考された201作品の中から、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点4部門計56点を選出した。

審査方法としては、部門ごとに優秀と思われる作品10点を各委員が無記名で選出し、それぞれの部門の得票数の高い方から最優秀賞、優秀賞、佳作とした。部門別・都道府県別の応募数は表2の通り。

ア. 応募作品到着 2024年8月下旬～9月11日（締め切り）

イ. 1次審査会（2024年9月19日 廃棄物・3R研究財団 大会議室）



ウ. 2次審査会（2024年9月25日 台東区民会館 第2会議室）



表 2

令和6年度3R促進ポスターコンクール部門別・県別応募数

都道府県	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	計
北海道	0	0	0	5	5
青森県	1	1	1	1	4
岩手県	0	0	0	5	5
宮城県	8	28	31	9	76
秋田県	3	15	19	5	42
山形県	0	0	1	10	11
福島県	0	10	0	6	16
茨城県	38	130	184	120	472
栃木県	0	0	0	0	0
群馬県	13	33	44	96	186
埼玉県	113	204	264	47	628
千葉県	15	54	72	2	143
東京都	26	48	29	45	148
神奈川	24	42	48	26	140
新潟県	0	2	0	0	2
富山県	0	11	4	49	64
石川県	1	8	24	0	33
福井県	0	0	7	14	21
山梨県	1	5	4	10	20
長野県	0	8	20	4	32
岐阜県	1	13	6	7	27
静岡県	2	33	10	17	62
愛知県	213	437	487	389	1,526
三重県	0	1	0	7	8
滋賀県	0	0	0	0	0
京都府	1	2	0	0	3
大阪府	4	86	7	22	119
兵庫県	11	58	42	80	191
奈良県	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	3	3
鳥取県	0	0	0	7	7
島根県	0	10	0	0	10
岡山県	0	10	4	10	24
広島県	0	0	0	0	0
山口県	0	0	0	14	14
徳島県	0	0	5	1	6
香川県	18	61	66	16	161
愛媛県	15	56	44	34	149
高知県	0	0	0	0	0
福岡県	7	102	13	24	146
佐賀県	2	5	6	14	27
長崎県	0	0	0	0	0
熊本県	0	3	4	0	7
大分県	0	0	0	0	0
宮崎県	2	8	4	34	48
鹿児島県	4	8	15	9	36
沖縄県	0	1	0	7	8
計	523	1,493	1,465	1,149	4,630



令和6年度3R促進ポスターコンクール入賞作品

環境省と3R・資源循環推進フォーラムが主催する令和6年度3R促進ポスターコンクールは、5月29日から小学生低学年の部、小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の4部門で公募が行われ、9月11日までに全国から合計4,630点の応募がありました。
審査の結果、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定されました。

最優秀賞

◆小学生低学年の部



愛知県大府市立
共和西小学校1年
松井 工さん

◆小学生中学年の部



熊本県八代市立
太田郷小学校4年
岩本 紘武さん

◆小学生高学年の部



愛知県刈谷市立
住吉小学校6年
松田 永羽さん

◆中学生の部



愛知県半田市立
乙川中学校3年
近藤 杏奈さん

小学生低学年(1・2年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



神奈川県鎌倉市立
小坂小学校2年
田中 友梨さん



愛知県額田郡幸田町立
深溝小学校2年
原田 朝陽さん



愛知県知多郡東浦町立
片晒小学校2年
植松 椿さん

◆佳作



愛媛県今治市立
鴨部小学校2年
佐々木 きららさん



愛知県知多郡東浦町立
森岡小学校1年
山内 瑛工さん



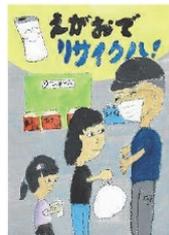
青森県青森市立
浦町小学校1年
久村 美典さん



佐賀県鳥栖市立
若葉小学校2年
竹内 杏那さん



茨城県守谷市立
守谷小学校2年
小林 朝花さん



愛知県西尾市立
花ノ木小学校2年
佐藤 ひなのさん



愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校2年
上田 結芽さん



東京都多摩市立
大松台小学校1年
田中 遥都さん



宮城県気仙沼市立
松岩小学校2年
昌山 楓馬さん



兵庫県加東市立
滝野東小学校2年
神澤 昊来さん

小学生中学年(3・4年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



香川県善通寺市立
中央小学校 4年
石田 凧さん



東京都多摩市立
大松台小学校 3年
田中 愛理さん



愛媛県伊予市立
郡中小学校 4年
西山 翠月さん

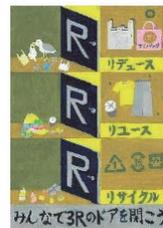
◆佳作



愛知県刈谷市立
かりがね小学校 4年
手塚 嬉多さん



千葉県旭市立
豊畑小学校 4年
木内 春翔さん



香川県丸亀市立
城西小学校 4年
中原 愛美香さん



静岡県袋井市立
袋井北小学校 4年
安間 咲良さん



千葉県茂原市立
豊田小学校 4年
濱田 ひなたさん



愛知県田原市立
福江小学校 3年
福田 結さん



石川県金沢市立
中央小学校 3年
館 天さん



埼玉県羽生市立
川俣小学校 3年
増田 和奏さん



香川県善通寺市立
中央小学校 4年
石井 結菜さん



愛知県大府市立
共和西小学校 4年
松井 葵さん

小学生高学年(5・6年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



兵庫県尼崎市立
塚口小学校 5年
仁禮 敦士さん

※「いい」はしめすへんに豊



東京都練馬区立
小竹小学校 6年
相澤 那月さん



埼玉県朝霞市立
朝霞第六小学校 6年
金子 美玖さん

◆佳作



石川県小松市立
苗代小学校 5年
曾我 穂華さん



愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校 6年
佐伯 羽音さん



愛知県海部郡蟹江町立
学戸小学校 5年
後藤 梨友さん



千葉県茂原市立
萩原小学校 6年
渡邊 勇太さん



兵庫県加東市立
東条学園小中学校 6年
金次 叶詩さん



茨城県守谷市立
高野小学校 6年
小沢 美尋さん



茨城県取手市立
藤代小学校 6年
横尾 琉矢さん



香川県善通寺市立
南部小学校 6年
小野 こまちさん



茨城県取手市立
白山小学校 5年
三井 忍さん



石川県能美市立
宮竹小学校 6年
木下 凜大さん

中学生の部 優秀賞・佳作入賞作品

◆優秀賞



愛媛県伊予郡松前町立
松前中学校 3年
石井 心笑さん



群馬県館林市立
第二中学校 3年
鈴木 翔空さん



愛知県北名古屋市長
師勝中学校 2年
荻原 瑠花さん

◆佳作



静岡県浜松市立
北浜中学校 3年
松本 陽菜さん



茨城県つくばみらい市立
伊奈東中学校 3年
磯崎 柚香さん



愛媛県伊予郡松前町立
岡田中学校 1年
安村 心希さん



茨城県取手市立
戸頭中学校 2年
駒木 東さん



愛知県西尾市立
鶴城中学校 2年
畠山 奏柳さん



香川県丸亀市立
東中学校 1年
大島 晴美さん



群馬県沼田市立
沼田西中学校 3年
大竹 惟月さん



愛知県高浜市立
高浜中学校 3年
鐘 一瑛さん



香川県丸亀市立
東中学校 3年
中島 凜乃さん



愛媛県伊予郡松前町立
松前中学校 3年
松田 勤佑さん

・総応募点数推移

年度	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	総応募数
令和6年度	523	1,493	1,465	1,149	4,630
令和5年度	627	1,821	1,650	1,214	5,312
令和4年度	677	1,868	1,905	1,455	5,905
令和3年度	668	1,902	2,218	1,833	6,621
令和2年度	478	1,241	1,266	1,101	4,086
令和元年度	548	1,531	1,648	1,813	5,540
平成30年度	576	1,478	1,754	1,562	5,370
平成29年度	832	2,118	2,698	3,052	8,700
平成28年度	783	2,163	2,628	2,884	8,458
平成27年度	962	2,334	3,214	3,213	9,723
平成26年度	875	2,601	3,581	3,232	10,289
平成25年度	955	2,725	3,066	3,648	10,394
平成24年度	917	2,480	3,130	3,685	10,212
平成23年度	1,630	—	3,819	3,032	8,481
平成22年度	1,682	—	4,041	3,208	8,931

・受賞作品使用例

愛知県環境学習副読本「わたしたちと環境」教師向けガイドブック

資源循環推進課

【3R促進ポスターコンクール】

3Rを促進するためのポスターを公募し、優秀作品を表彰することで、国民一人一人が循環型社会のあり方を考えるきっかけとし、普及啓発に資することを目的に環境省及び3R・資源循環推進フォーラムの主催で行われます。

※募集方法・・・

市町村広報誌等により募集されます。

◇3R・資源循環推進フォーラムのWebページ
<https://www.3r-forum.jp/>

令和6年度3R促進ポスターコンクール



小学生低学年の部 最優秀賞
大府市立共和西小学校1年生



小学生高学年の部 最優秀賞
刈谷市立住吉小学校6年生



中学生の部 最優秀賞
刈谷市立乙川中学校3年生

※愛知県環境局資源循環推進課ご提供

(4) 環境省主催地方セミナー

質にも着目した循環型社会の形成を図るため、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、地域循環共生圏、食品ロス法、容器包装リサイクル法、プラスチック資源循環法、循環経済工程表等、脱炭素社会との統合的な取組を踏まえ、都道府県等の地方自治体、事業者団体、NPO/NGO 等と連携して環境省主催3R推進地方セミナーを開催した。

地方セミナーでは、3Rの取組や循環経済に関する最新の情報や成功事例を共有し、地方自治体や事業者団体の交流を促進することを目的とした。

ア. 「兵庫県における水平リサイクルの最新の取組」(兵庫県)

開催日時：2024年12月20日(金) 13:30~16:40

開催拠点：兵庫県立兵庫津ミュージアム ひょうごはじまり館 研修室 / オンライン(Microsoft Teams)

開催主体：環境省、兵庫県、3R・資源循環推進フォーラム

参加者：計175名(会場42名 オンライン133名)

プログラム：(敬称略)

13:30 開会挨拶

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐 大井 泰人

13:35 基調講演

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐 大井 泰人
「第五次循環型社会形成推進基本計画～循環経済を国家戦略に～」

14:10 事例発表1

神戸市環境局資源循環課長 井関 和人
「KOBEからはじまるプラスチックの未来「まわり続けるリサイクル」」

14:45 事例発表2

遠東石塚グリーンペット株式会社 営業本部原料調達部 部長 青木 聡
「FIGPのボトル to ボトル」

15:20 休憩

15:30 事例発表3

株式会社エフピコ サステナビリティ推進室ジェネラルマネージャー 富樫 英治
「エフピコモデルの資源循環型リサイクル トレーto トレー&ボトル to 透明容器」

16:05 事例発表4

株式会社 JEPLAN 取締役執行役員会長 岩元 美智彦
「みんな参加型の循環型社会！ーリサイクルは世界平和ー」

16:40 閉会（閉会后、意見交換や名刺交換ができる時間を設けた）

イ、「福島県における3R・資源循環に向けた最新の動向について」（福島県）

開催日時：2025年1月31日（金）13:10～17:00

開催拠点：福島県庁講堂 / オンライン(Microsoft Teams)

開催主体：環境省、福島県、3R・資源循環推進フォーラム

参加者：計104名（会場40名 オンライン64名）

プログラム：（敬称略）

13:10 開会挨拶

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長 近藤 亮太

13:15 基調講演

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長 近藤 亮太

「第五次循環型社会形成推進基本計画～循環経済を国家戦略に～」

13:50 特別講演

福島大学経済経営学類 教授 沼田 大輔

「福島県のごみをどう減らすか～現状と課題～」

14:40 事例発表1

座間市暮らし安全部リユース推進課 係長 中嶋 康仁

「神奈川県座間市のリユース・リサイクルの取組」

15:15 休憩

15:25 事例発表2

株式会社タケエイ 常務執行役員、サーキュラーエコノミー推進本部長兼サーキュラーエコノミー支店長 三本 鋭植

「相馬サーキュラーパーク実現に向けた広域連携について」

16:00 取組結果発表

福島県生活環境部一般廃棄物課 主査 高橋 智子

「福島県ごみ減量市町村連携推進会議における課題の検討結果について」

16:30 閉会（閉会后、意見交換や名刺交換ができる時間を設けた）

※セミナー終了後に、一部講演資料をHPにて公開した。また、一部講演動画を会員専用ページにて公開した。

2. 連携・協働事業

(1) 3R推進団体連絡会との共催による容器包装交流セミナー

プラスチック資源循環法が施行され、プラスチックの一括回収が始まり、3R推進団体連絡会と3R・資源循環推進フォーラムは、3R・循環経済をテーマにNPO団体、事業者、自治体などのステークホルダーが一堂に会し、主体間の信頼と連携・協働の輪が大きく広がることを期待し、全国各地でセミナーを開催した。3回開催終了後に「容器包装交流セミナー報告書 2024」を作成し全国の自治体に配布した。

ア. 容器包装交流セミナー in 高松



開催日時：2024年7月2日（火）13：00～16：45

開催拠点：サンポートホール高松 54 会議室（51 会議室を一部併用）

開催主体：3R推進団体連絡会、3R・資源循環推進フォーラム

協力：高松市 後援：香川県

参加者：56名

プログラム：（敬称略）

13：00～13：10 開会挨拶

環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環推進室
室長 井上 雄佑

香川県環境森林部部長 秋山 浩章

3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

13：10～13：55 事例報告

高松市環境局ゼロカーボンシティ推進課長 山本 和豊

NPO グリーンコンシューマー高松 代表 勝浦 敬子

3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

13：55～14：25 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14：25～16：30 3グループに分かれて意見交換

16：30～16：45 意見交換まとめ

16:45

閉会挨拶

3R・資源循環推進フォーラム 事務局長 平 久

イ. 容器包装交流セミナー in 岐阜



開催日時：2024年11月21日（木）13:00～16:45

開催拠点：岐阜市民会館 会議室 80（多目的ルーム A を一部併用）

開催主体：3R推進団体連絡会、3R・資源循環推進フォーラム

協力：岐阜県、岐阜市

参加者：47名

プログラム：（敬称略）

13:00～13:10 挨拶

環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室

主査 岡林 正行

岐阜県環境生活部次長 工藤 喜史

3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

13:10～13:55 事例報告

岐阜市環境部源循環課長 野々村 聖子

NPO 法人いびがわみずみずエコステーション 理事・事務局長 岩間 誠

3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

13:55～14:25 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14:25～16:30 3グループに分かれて意見交換

16:30～16:45 意見交換まとめ

16:45 閉会挨拶

3R・資源循環推進フォーラム 事務局長 平 久

※セミナー終了後に、一部講演資料をHPにて公開した

ウ. 容器包装交流セミナー in 前橋



開催日時：2025年2月19日（水）12：45～16：15

開催拠点：ぐんま男女共同参画センター 大研修室（小研修室を一部併用）

開催主体：3R推進団体連絡会、3R・資源循環推進フォーラム

協力：群馬県、前橋市

参加者：43名

プログラム：（敬称略）

12：45～12：55 挨拶

環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室
主査 濱田 倫
群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課課長 松本 潔志
3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

12：55～13：40 事例報告

前橋市環境部ごみ政策課長 大山 幸成 氏
群馬県環境アドバイザー連絡協議会 ごみ部会 部会長 奈賀 由香子
3R推進団体連絡会 幹事長 久保 直紀

13：40～14：00 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14：00～16：00 3グループに分かれて意見交換

16：00～16：15 意見交換まとめ

16：15 閉会挨拶

3R・資源循環推進フォーラム 事務局長 平 久

※セミナー終了後に、講演資料をHPにて公開した

(2) 一般社団法人持続可能環境センターとの連携

環境が将来にわたって持続するよう、家庭・企業・コミュニティ等において必要な知見を共有するとともに、活動の輪を広げるための教育・人材の育成等を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

ア. 持続可能環境センター総会

開催日時：2024年6月21日（金）10：00～12：00

開催拠点：持続可能環境センター事務所 およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：2023年度事業報告、第17回検定の実施に向けた検討他

イ. 持続可能環境センター理事会

開催日時：2024年9月30日（月）10：00～12：00

開催拠点：持続可能環境センター事務所 およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：第17回検定の実施の進捗状況、次年度以降の方向性他

ウ. 持続可能環境センター理事会

開催日時：2024年12月26日（木）10：30～12：00

開催拠点：持続可能環境センター事務所 およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：第17回検定の報告と反省点、次年度以降の検定について他

エ. 持続可能環境センター理事会

開催日時：2025年3月25日（火）10：00～12：00

開催拠点：持続可能環境センター事務所 およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：2024年度事業実施概要、2025年度事業計画他

オ. 第17回 3R・気候変動検定 検定講習会開催 運営業務（関東地区：東京会場）

開催日時：2024年10月12日（土）

3R部門 9：30～12：30

気候変動部門 13：30～16：30

開催拠点：東京会場

（公財）廃棄物・3R研究財団 会議室

開催主体：3R・気候変動検定 検定事務センター



カ. 第17回 3R・気候変動検定試験開催 運營業務

(関東地区：東京会場)

開催日時：2024年11月17日(日)

開催拠点：有明セントラルタワー ホール&カンファレンス 定員120名

開催主体：3R・気候変動検定 検定事務センター

受験者：3R部門53名 気候変動部門53名



(3) 公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局との連携

時代を担う子どもたちのコミュニケーションの能力、課題発見、解決能力、多様性を受容できる力、新しい価値を生み出す力など「未来を創る力」を育む活動を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

令和6年度は、SDGs チャレンジ「ロスフラワー®をアップサイクルしよう」参加募集の掲載協力依頼などを行った。



(4) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会との連携

ア. 令和6年度 3R・循環経済先進事例研究発表会

脱炭素型資源循環システムの構築、地域に密着した資源循環、産官学や動静脈連携等に関する先進的な取組を行っている企業や自治体などの事例を積極的に発信していただき、関係者の連携や相互交流を促進することにより、連携の拡大や横への展開を進め、循環型社会の一層の拡大浸透を図るため、本発表会を開催した。

開催日時：2024年12月23日（月）14:00～17:00

開催拠点：AP 東京八重洲 ROOM W / オンライン (Microsoft teams)

開催主体：3R・資源循環推進フォーラム、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

参加者：計 131 名（会場参加 21 名、オンライン参加 110 名）

プログラム：(敬称略)

- 14:00 開会挨拶
3R・資源循環推進フォーラム会長、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長
細田 衛士
- 14:05 基調講演
「循環経済推進に向けた各主体への期待 ～共創の時代を目指して～」
東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、慶応大学名誉教授 細田 衛士
- 14:35 発表事例1
「松本市脱炭素プロジェクト「ワンウェイプラスチック削減ミッション」の取組み」
松本市役所
- 14:55 発表事例2
「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン達成に向けたアプリ開発及び試用事例」
総合地球環境学研究所、京都超SDGsコンソーシアム
- 15:15 休 憩
- 15:25 発表事例3
「ユニリーバ SDGs プラットフォーム「UMILE (ユーマイル) によるサーキュラーエコノミーモデルの確立」
ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社
- 15:45 発表事例4
「オフィス家具のリユースおよび鉄、樹脂の水平リサイクル」
五十鈴ビジネスサポート株式会社、サイクラーズ株式会社、トライシクル株式会社
- 16:05 発表事例5
「バイオマス資源の活用による脱炭素化と地域経済活性化」
一般社団法人 日本有機資源協会
- 16:25 発表事例6
「アルミニウム産業におけるリサイクルの課題への取組み」
一般社団法人 日本アルミニウム協会
- 16:45 講評
3R・資源循環推進フォーラム 副会長 梶原成元
- 17:00 閉会挨拶
3R・資源循環推進フォーラム 副会長 梶原成元
懇談・名刺交換 (30分)

※セミナー終了後に、一部講演資料を HP にて公開した。

イ. 循環・3Rリレーセミナー ～資源循環を巡る国内外の最新情勢について～

サーキュラーエコノミーに向けた資源循環の動向について、基調講演、省庁の施策、実践事例を共有することにより、より高度な資源循環を目指す団体・企業・自治体・NPOなどが次のステップを進めるヒントを提供する目的で開催した。

開催日時：2025年2月14日（金）13:30～16:30

開催拠点：AP 新橋 I ルーム / オンライン (Microsoft teams)

開催主体：3R・資源循環推進フォーラム、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

参加者：計74名（会場参加19名、オンライン参加55名）

プログラム：（敬称略）

13:30 開会挨拶

13:35 基調講演「サーキュラーエコノミー実現に向けた各主体の役割」
東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、慶應義塾大学名誉教授、中部大学名誉教授
細田 衛士

14:05 話題提供1「第五次循環型社会形成推進基本計画について」
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 近藤 亮太

14:35 話題提供2「食のサーキュラーエコノミー」
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室長
鈴木 学

15:05 休憩

15:15 話題提供3「成長志向型の資源自律経済の確立に向けた取組について」
経済産業省 GX グループ資源循環経済課長 田中 将吾

15:45 トピックス「資源循環を巡る最新の国際情勢と国内の対応について」
東北大学名誉教授・ISO/TC 323 国内委員会委員長 中村 崇

16:25 閉会挨拶
3R・資源循環推進フォーラム副会長 梶原 成元
懇談・名刺交換（30分）

※セミナー終了後に、一部講演資料を HP にて公開した。また、一部講演動画を会員専用ページにて公開した。

(5) 廃棄物・3R研究財団&3R・資源循環推進フォーラム年次報告会

令和6年度の廃棄物・3R研究財団及び3R・資源循環推進フォーラム主催の年次報告会にて、3R・資源循環推進フォーラムの活動報告と今後の方向性について報告をした。

開催日時：2024年10月30日（水）13：10～16：10

開催拠点：KFCビル（第一ホテル両国直結10階 Room101～103）

開催主体：公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R・資源循環推進フォーラム

参加者：会場参加44名 オンライン参加41名 計85名

(6) スチール缶リサイクル協会との連携

ア. 2024年度第1回散乱防止・美化キャンペーン

福井県敦賀市気比の松原にて、敦賀市主催の清掃イベント「気比の松原クリーンアップ」に参加し、地元の方々とともに海岸清掃活動を行った後、敦賀駅西広場公園に移動し、通行されている方々に小冊子やノベルティを配布してスチール缶のリサイクル推進・ポイ捨て防止の啓発活動を行った。

開催日時：2024年6月2日（日）8：00～11：30

開催拠点：福井県敦賀市気比の松原、JR敦賀駅西広場公園



スチール缶リサイクル協会よりご提供

イ. 2024年度第2回散乱防止・美化キャンペーン

「出雲駅伝」の大会前斉清掃イベント（出雲市ポイ捨て禁止推進協議会主催「ポイ捨て禁止キャンペーン」@出雲駅伝コース）に協力し、マラソンコースとなる国道周辺の清掃を行った後、夢フェスタ会場周辺（JR出雲市駅他）でスチール缶のリサイクル推進・ポイ捨て防止の啓発活動を行った。

開催日時：2024年10月12日（土）10：00～11：30

開催拠点：島根県出雲市市役所、夢フェスタ会場周辺（JR出雲市駅他）



スチール缶リサイクル協会よりご提供

(7) 一般社団法人産業環境管理協会（資源リサイクル促進センター）との連携
SDGs チャレンジ 「ロスフラワー®をアップサイクルしよう」

小中学生とその保護者を対象に、事務局から3RやSDGsについての話をし、フラワーサイクリストの中村佳世先生からは、ロスフラワーの話やガーランドなどへアップサイクルする方法などをお話いただいた。子供達は廃棄される予定だったお花を、思い思いにガーランドにアップサイクルにするチャレンジをした。



開催日時：2024年7月13日（土）

午前の部 11:00～ 午後の部 14:30～

開催拠点：GEOC（地球環境パートナーシッププラザ国連大学
1階セミナースペース）

開催主体：（一社）産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター、
3R・資源循環推進フォーラム

協力：GEOC（地球環境パートナーシッププラザ）

参加者：計24名（午前の部13名、午後の部11名）

3. 実務講座・相談事業

(1) 自治体・事業者との勉強会、研修

市町村に資源循環に関する情報提供、意見交換を通じて、自治体相互の交流を図り、広域事業等の新たな展開に役立てると共に、プラスチック資源循環の一層の推進を図ることを目的に「プラスチック資源循環研修会」をハイブリッド方式で開催した。

ア. プラスチック資源循環研修会 高松

開催日時：2024年7月3日（水）13:00～16:40

開催拠点：サンポートホール高松62会議室 /オンライン（Microsoft Teams）

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、PETボトルリサイクル推進協議会、
3R・資源循環推進フォーラム、（公財）廃棄物・3R研究財団

協力：高松市 後援：香川県

参加者：計46名（会場21名、オンライン25名）

プログラム：（敬称略）

13:00～13:05 開会挨拶
高松市環境局局长 中尾 考志

13:05～13:45 講話「脱炭素と循環経済の動向 カーボンニュートラル+サーキュラーエコノミー」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原 成元

- 13:45～14:25 講義1「成長志向型の資源自律経済戦略と今後の資源循環経済政策」
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川 泰弘
- 14:25～15:05 講義2「プラスチック資源循環政策の動向」
環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室長 井上 雄祐
- (休憩)
- 15:10～15:50 講義3「PETボトル資源循環の動向」
PETボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松 郁夫
- 15:50～16:30 講義4「プラスチックの循環利用」
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 理事 会長補佐 久保 直紀
※質疑応答は、各講演後5分
- 16:30～16:40 質疑応答（追加）と連絡等
(公財) 廃棄物・3R研究財団 / 3R・資源循環推進フォーラム
- 16:40 閉会



イ. プラスチック資源循環研修会 岐阜

開催日時：2024年11月22日（金）13:00～16:40

開催拠点：岐阜市民会館 会議室 80 / オンライン (Microsoft Teams)

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、PETボトルリサイクル推進協議会、3R・資源循環推進フォーラム、公益財団法人廃棄物・3R研究財団

協力：岐阜県、岐阜市

参加者：計62名（会場22名、オンライン40名）

プログラム：(敬称略)

- 13:00～13:05 開会挨拶
岐阜市環境部環境一課 課長 吉村 和展
- 13:05～13:45 講話 「脱炭素と循環経済の動向 カーボンニュートラル+サーキュラーエコノミー」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原 成元
- 13:45～14:25 講義1 「プラスチックに係る資源循環の取組をはじめとした資源循環経済政策について」
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 課長補佐 吉清 裕一
- 14:25～15:05 講義2 「プラスチック資源循環の推進」
環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室 主査 岡林 正行
- (休憩)
- 15:10～15:50 講義3 「PETボトル資源循環の動向」
PETボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松 郁夫
- 15:50～16:30 講義4 「プラスチックの循環利用」
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 理事 会長補佐 久保 直紀
- 16:30～16:40 質疑応答(追加)と連絡等
- 16:40 閉会



ウ. プラスチック資源循環研修会 前橋

開催日時：2025年2月20日(木) 12:45～16:30

開催拠点：ぐんま男女共同参画センター 大研修室 /オンライン (Microsoft Teams)

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、PETボトルリサイクル推進協議会、
3R・資源循環推進フォーラム、公益財団法人廃棄物・3R研究財団

協力：群馬県、前橋市

参加者：計39名(会場7名、オンライン32名)

プログラム：(敬称略)

12:45～12:50 開会挨拶

前橋市環境部長 倉林 薫

12:50～13:30

講話「脱炭素と循環経済の動向 カーボンニュートラル+サーキュラーエコノミー」

公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原 成元

13:30～14:10

講義1「プラスチックに係る資源循環の取組をはじめとした資源循環経済政策について」

経済産業省イノベーション・環境局 GXグループ 資源循環経済課 課長補佐 吉清 裕一

14:10～14:50

講義2「プラスチック資源循環の推進」

環境省環境再生・資源循環局総務課容器包装・プラスチック資源循環室 主査 濱田 倫

(休憩)

15:00～15:40

講義3「PETボトル資源循環の動向」

PETボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松 郁夫

15:40～16:20

講義4「プラスチックの循環利用」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 理事 会長補佐 久保 直紀 氏

16:20～16:30

質疑応答(追加)と連絡等

16:30 閉会

※セミナー終了後に、一部講演資料をHPにて公開した。また、一部講演動画を会員専用ページにて公開した。



(2) 講師派遣

公益財団法人東京都環境公社主催「第一回サーキュラーエコノミーサロン」

開催日時：2024年7月10日(水) 13:00～15:00

開催拠点：コモレ四谷 RoomF / オンライン(ZOOM)

テーマ：「3R・資源循環推進フォーラムの活動について」

3R・資源循環推進フォーラム専任理事 宇仁菅伸介

4. 広報普及事業

(1) HP やメルマガを通じた普及啓発活動

ア. ホーム画面のバナーの更新を積極的に実施

参加者を募集するイベントなど、視覚で惹きつけるような工夫の一つとして行った。以下に本年度の一例を掲載する。

- ・ 3R促進ポスターコンクール作品募集開始～9月締め切りまで



- ・ 3R推進全国大会参加者の募集開始～終了まで



- ・ 環境省主催 3R推進地方セミナー（兵庫県）の募集開始～終了まで



イ. 3R・廃棄物 NEWS 配信（メルマガ）

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月2回配信した。

(配信登録者約 6500 件 (2025 年 4 月時点))

配信した直後、イベントの申込数が増加傾向となるので、今後も積極的に配信していく。

ウ. 3R推進月間用ポスターを通じた3R啓発

環境省と実施している令和6年度の3R促進ポスターコンクールの最優秀賞作品を使用した3R推進月間用ポスターデータを利用できるよう、WEB上で広報した。



エ. 3R・資源循環推進フォーラムのポスターの作成

3R・資源循環推進フォーラムの活動内容説明ポスターを作成し、3R推進全国大会の展示コーナーや容器包装交流セミナーの会場などに掲示した。



オ. 3R・資源循環推進フォーラムのパンフレットの作成

3R・資源循環推進フォーラムの活動内容説明パンフレットを作成し、3R推進全国大会の展示コーナーや容器包装交流セミナーの会場などで配布した。



(2) 会員向けサービス

ア. 事務局通信の配信

事業の企画や業務執行の状況等会員に随時報告するための事務局通信を年5回配信した。

3R・資源循環推進フォーラムの情報のほか、3R・循環経済に関する取組も掲載するように内容の充実に努めた。

年度	発行回数
2024年度	5
2023年度	4
2022年度	4
2021年度	3
2020年度	2
2019年度	4
2018年度	1

イ. 動画配信

第20回3R・資源循環推進フォーラム理事会総会での細田衛士会長の基調講演や、循環・3Rリレーセミナー、プラスチック資源循環研修会などの講演動画を会員専用ページにて掲載した。

【会員向け】循環・3Rリレーセミナー
～資源循環を巡る国内外の最新情勢について～

2025年2月14日開催



- (3) 3R促進ポスターコンクール展示（令和5年度入賞作品）を通じた3R推進普及活動
以下の場所で最優秀作品全4点の展示を行った。
地球環境パートナーシッププラザ（国連大学1階）
開催日時：2024年7月2日（火）～8月30日（金）



(4) その他の後援・協賛等

- ア. 第18回「小・中学校における環境教育推進支援事業」への後援
主催：スチール缶リサイクル協会
募集期間：2024年6月1日～10月31日
※審査委員会委員として宇仁菅専任理事が就任した。
- イ. 第19回容器包装3R推進フォーラムへの後援
主催：3R推進団体連絡会
開催日時：2025年1月28日
開催拠点：全労連会館 / オンライン

ウ. 建設副産物リサイクル広報推進会議への後援

・令和6年度建築副産物リサイクル広報用ポスター

掲出期間：2024年10月1日～2025年9月30日

掲示場所：国土交通省、地方自治体等

・2024建設リサイクル技術発表会・技術展示会

開催日時：2024年10月30日(技術発表会) / 10月30日・31日(技術展示会)

開催拠点：広島市南区民文化センター スタジオ(技術発表会)

広島産業会館東展示館(技術展示会)

エ. 第20回産業廃棄物と環境を考える全国大会への後援

主催：(公社)全国産業資源循環連合会, (公財)日本産業廃棄物処理振興センター,
(公財)産業廃棄物処理事業振興財団

開催日時：2024年11月15日

開催拠点：岐阜グランドホテル ロイヤルシアター

オ. ニュースレター「R」でつながる」編集協力

3R・低炭素社会検定 の合格者向けのニュースレター「ニュースレター「R」でつながる」にて編集協力を行った。

(5月号へ寄稿 トップメッセージ 寄稿者 専任理事 宇仁菅 伸介)

<3R活動推進フォーラムから3R・資源循環推進フォーラムへ>

(5) Rマーク表示の啓発普及

3R・資源循環推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月に定めた再生紙普及のためのRマーク(再生紙使用マーク)について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等と併せて広報に努めた。

ア. ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載。

イ. 問い合わせへの対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物に関する電話などでの問い合わせ、教材への掲載方法についての問い合わせなどに対応した。3R・資源循環推進フォーラム全体の問合せの3分の1を占めていることから、関心が高いことがわかった。

《Rマーク表示例》

平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされている。



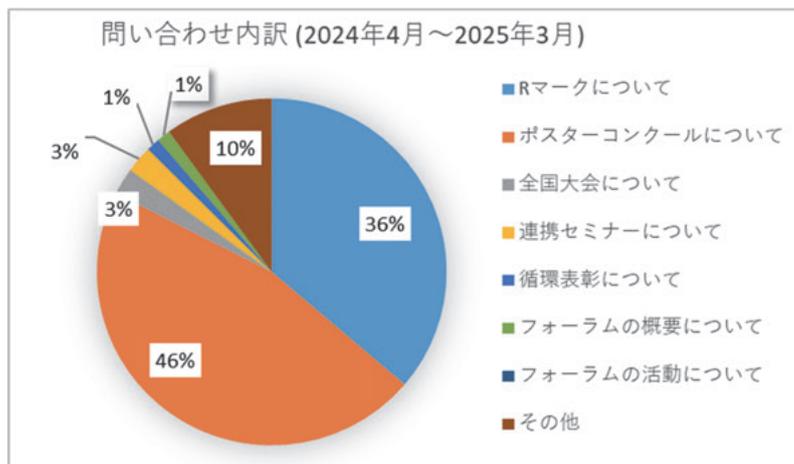
ウ. 利用についての報告・相談例（以下一例）

- ・「THE TIME」（株式会社TBSテレビ）での照会
- ・書籍『技術・家庭ノート家庭分野』（株式会社正進社）への画像掲載
- ・月刊誌『月間清流』（清流出版株式会社）への画像掲載
- ・株式会社 MonotaRO（モノタロウ）web ページにて画像掲載
- ・書籍『新編新しい技術・家庭 家庭分野』（東京書籍株式会社）への画像掲載

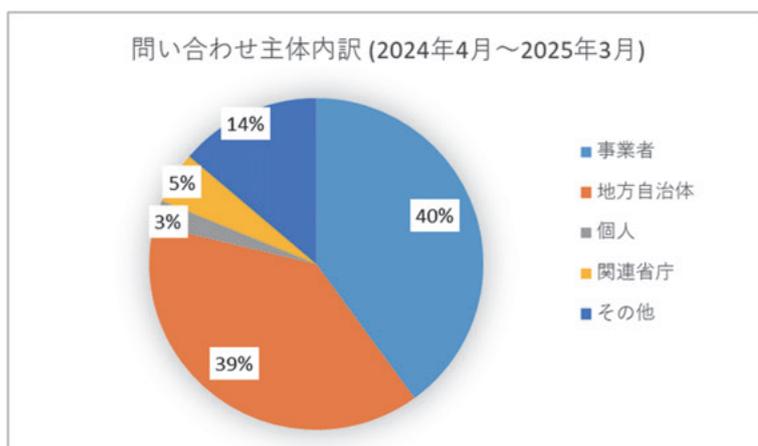
(6) その他相談業務

3R・資源循環推進フォーラムへは様々な主体から各種問い合わせがあり、その内訳は以下の通り。
(2025年4月上旬集計)

・問い合わせ内容



・問い合わせ主体内訳



(7) メディア掲載

掲載日	雑誌・新聞名	記事内容
4月17日	環境新聞	組織改称
5月号	都市と廃棄物 Vol.54	組織改称
7月1日	環境経済新聞	理事会・総会開催結果記事
7月3日	環境新聞	理事会・総会開催結果記事
9月5日	ウエイスト・マネジメント	3R・循環経済先進事例研究発表会募集
9月25日	ウエイスト・マネジメント	年次報告会告知記事
9月30日	循環経済新聞	全国大会告知記事
10月号	月刊廃棄物	全国大会告知記事
10月25日	ウエイスト・マネジメント	全国大会開催結果
11月1日	環境新聞オンライン	年次報告会結果記事
11月2日	JCOM	ジモトトピックス
11月20日	環境新聞	年次報告会結果記事
11月25日	循環経済新聞	全国大会開催結果
12月5日	ウエイスト・マネジメント	3R・循環経済先進事例研究発表会聴講者募集
12月号	月刊廃棄物	全国大会開催結果
12月号	都市と廃棄物	全国大会開催結果
1月1日	ウエイスト・マネジメント	3R・循環経済先進事例研究発表会結果掲載
2月1日	福島民友新聞社	地方セミナー福島開催結果
2月号	月刊廃棄物	容器包装交流セミナーin 岐阜開催結果

5. 令和6年度収支決算

令和6年度 収支決算書

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 会 費 収 入	4,000,000	4,000,000	0	
(1) 会費収入	4,000,000	4,000,000	0	
2 事 業 収 入	4,000,000	3,854,838	△ 145,162	
(1) 容器包装交流セミナー開催業務等収入	3,500,000	3,624,412	124,412	業務分担金容器包装交流セミナー業務分担金収入
(2) プラスチック資源循環研究会運営費収入	200,000	124,828	△ 75,172	プラスチック資源循環研究会運営費分担金収入
(3) 研修会負担金収入	300,000	105,598	△ 194,402	3R・循環経済先進事例発表会業務分担金収入
3 利 息 収 入	30	2,804	2,774	
(1) 普通預金利息収入	30	2,804	2,774	
4 雑 収 入	0	0	0	
当期収入合計	8,000,030	7,857,642	△ 142,388	
前期繰越収支差額	3,248,669	3,248,669	0	
収入合計	11,248,699	11,106,311	△ 142,388	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 普及啓発費	7,778,000	3,430,518	△ 4,347,482	
(1) 企画等運営費	692,000	763,598	71,598	理事会、総会等関係経費
1) 謝金	200,000	170,000	△ 30,000	
2) 旅費	20,000	31,680	11,680	
3) 印刷製本費	0	146,487	146,487	
4) 通信運搬費	2,000	7,660	5,660	
5) 会議費	100,000	0	△ 100,000	
6) 消耗品費	0	28,952	28,952	
7) 賃借料	350,000	358,226	8,226	
8) 調査旅費	20,000	20,593	593	理事会事前打合せ
(2) 3R推進大会費	236,000	106,337	△ 129,663	3R推進全国大会開催関係経費
1) 印刷製本費	1,000	0	△ 1,000	
2) 会議費	20,000	0	△ 20,000	
3) 消耗品費	0	5,980	5,980	
4) 賃借料	0	46,600	46,600	
5) 調査旅費	150,000	37,257	△ 112,743	
6) 広告宣伝費	50,000	16,500	△ 33,500	3R推進全国大会広告料
7) 雑費	15,000	0	△ 15,000	
(3) セミナー等開催費	3,500,000	2,099,641	△ 1,400,359	セミナー、研修等開催経費
1) 謝金	470,000	445,000	△ 25,000	セミナー、研究発表会講師謝金
2) 旅費	300,000	384,191	84,191	講師等旅費
3) 印刷製本費	750,000	3,288	△ 746,712	
4) 通信運搬費	300,000	46,464	△ 253,536	
5) 消耗品費	100,000	22,013	△ 77,987	
6) 会議費	50,000	77,855	27,855	
7) 賃借料	650,000	379,910	△ 270,090	セミナー等会場借料
8) 調査旅費	850,000	740,260	△ 109,740	
9) 雑費	30,000	660	△ 29,340	
(4) 広報活動費	3,350,000	460,942	△ 2,889,058	HPなどを活用した広報活動費
1) 謝金	0	0	0	
2) 印刷製本費	120,000	15,355	△ 104,645	報告書等印刷発送 他
3) 通信運搬費	10,000	0	△ 10,000	資料送付代
4) 消耗品費	10,000	0	△ 10,000	
5) 賃借料	0	0	0	
6) 調査旅費	60,000	145,987	85,987	美化キャンペーン参加旅費等
7) 広告宣伝費	3,000,000	149,600	△ 2,850,400	新聞広告掲載料
8) 人材派遣費	0	0	0	
9) 会費	150,000	150,000	0	こどもエコクラブ'等会費
2 管理費	2,165,000	2,312,616	147,616	
1) 旅費	40,000	2,132	△ 37,868	
2) 印刷製本費	150,000	124,600	△ 25,400	
3) 通信運搬費	550,000	625,380	75,380	電話、HPサポート費等
4) 消耗品費	0	47,844	47,844	
5) 光熱水材費	70,000	74,846	4,846	賃借料等負担金
6) 賃借料	1,320,000	1,252,334	△ 67,666	
7) 租税公課	5,000	2,550	△ 2,450	収入印紙代等
8) 雑費	30,000	39,930	9,930	
9) 業務委託費	0	143,000	143,000	
当期支出合計	9,943,000	5,743,134	△ 4,199,866	
当期収支差額	△ 1,942,970	2,114,508	4,057,478	
次期繰越収支差額	1,305,699	5,363,177	4,057,478	

【注】上記の収入・支出には、フォーラムの活動に要した経費のうち、公益財団法人廃棄物・3R研究財団が負担したもの(人件費等)は含まれていない。

令和6年度 貸借対照表

(令和7年 3月31日現在)

(単位:円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【 流動資産】		【 負 債】	
現金	101,135	未払金	1,787,509
普通預金	7,053,328	預り金	4,080
仮払金	303	【 正味財産】	
		正味財産	5,363,177
		(うち当期正味財産増加額)	(2,114,508)
資産合計	7,154,766	負債及び正味財産合計	7,154,766

【参考】 3R・資源循環推進フォーラムについて

1. 「3R・資源循環推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～

「3R・資源循環推進フォーラム」の前身は、平成4年(1992)に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、分別、保管、再生(リサイクル)等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱(法目的)として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体において、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙使用マーク(Rマーク)の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われてきました。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2002)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一歩踏み込んだ「ごみゼロ型社会づくり」(循環型社会づくり)の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成17年(2005)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」(会長：加藤三郎環境文明研究所代表)が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団(平成23年12月に(公財)廃棄物・3R研究財団に移行)に事務局が移り、現在に至っています。

それ以降、フォーラムは、特別の利益を代表することのない公益的団体として、関係者、関係機関が一体となった3Rによる循環型社会づくりを進めてきました。

近年、資源・エネルギーや食糧の需要の増大、プラスチックごみをはじめとする廃棄物の発生量の増加が世界全体で深刻化しており、廃棄物分野の脱炭素化の強化、追加的なプラスチック汚染をゼロにすること等を目指すことが世界の潮流となっています。国際的にも循環経済・資源効率性が一つのテーマとして議論されているところです。

資源を徹底的に循環利用するためには、従来の3Rによる循環型社会づくりに係る取組に加え、現在の

資源循環・循環経済に関する国内外の課題認識を踏まえながら、これまで以上に市民の皆様に分かりやすく情報提供することが必要となっています。

以上のようなことを考慮し、令和6年4月、組織の名称を「3R活動推進フォーラム」から「3R・資源循環推進フォーラム」に改めました。市民や事業者の皆様、行政、研究機関が一体となったプラットフォーム機能を強化して、これまで以上に環境省をはじめとする府省や会員の皆様と連携し、幅広いステークホルダーが情報共有、相互連携できることを目指しています。

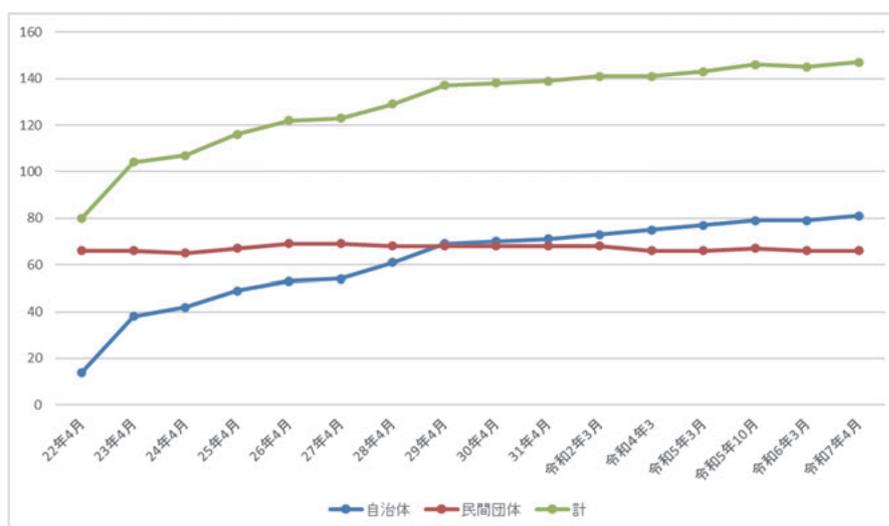
・歴代会長

初代	平成18年1月から平成18年5月	環境文明研究所代表	加藤三郎氏
第2代～第3代	平成18年5月から平成22年4月	東京大学総長	小宮山宏氏
第4代～第5代	平成22年4月から平成26年5月	東京大学大学院教授	武内和彦氏
第6代～第10代	平成26年5月から現在	東海大学副学長	細田衛士氏

・会員数

会員は、自治体会員81、民間会員66、合わせて147会員（令和7年4月現在）

【会員数推移表】 ※令和元年度から年度末の会員数とした。



2. 3R・資源循環推進フォーラム事業活動

3R・資源循環推進フォーラムは、3Rに関する以下の事業等を実施しています。

- ① 3R・資源循環に関する研鑽・啓発
- ② 3R・資源循環に関する先進的事業の実施・支援
- ③ 3R・資源循環に関する調査研究の実施・支援
- ④ 3R・資源循環に関する国内外の情報の収集、提供など

また、第五次循環型社会形成推進基本計画等を踏まえ、これらの計画が求めている循環型社会の形成に向けて、各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下の事業等を実施することとしています。

(1) 3R推進全国大会及び関連事業

3R推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会の形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供し、ごみの減量・再資源化などの3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進することを目的として、環境省と3R・資源循環推進フォーラム、自治体等の共同で開催しています。

(2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努めます。

(3) 実務講座・相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、研修セミナーを実施していきます。

(4) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を年次報告書などにとりまとめ広報に努めるとともに、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3Rの推進を啓発・普及していきます。また、ガイドラインに沿ったRマーク表示の啓発・普及を行っています。

3. 3R活動関係年表

年	3R・循環 関連法など	活動の歴史	経済・社会情勢
1970	廃棄物処理法の公布		
1971	環境庁の設置		変動相場制へ
1986	ごみ処理施設構造指針の改正		
1988	廃棄物最終処分場指針の改正		
1989	5月 ヘルシンキ宣言採択「フロンを2000年までに全廃」 12月 鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言	8月 財団法人廃棄物研究財団設立	消費税施行、税率3% 米ソ首脳「マルタ会談」東西冷戦終結
1990	12月「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)の策定	3月 廃棄物学会設立	株価暴落、バブル景気の崩壊

1991	4月「再生資源有効利用促進法」公布 10月「廃棄物処理法」改正 法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入		湾岸戦争
1992	6月 地球サミット、リオ・デジャネイロで開催	9月 「 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 」発足((社)全国都市清掃会議 事務局) 第1回ごみ減量化推進全国大会(岡山県、岡山市)	
1993	11月「環境基本法」公布	11月 第2回ごみ減量化推進全国大会(東京都)	
1994	12月「環境基本計画※」閣議決定	5月ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9月 第3回ごみ減量化推進全国大会(大阪府、大阪市)	
1995	6月「容器包装リサイクル法」公布 「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定	6月 ごみ減量化推進国民会議、「包装・容器の減量化に関する指針」採択 9月 第4回ごみ減量化推進全国大会(千葉県、千葉市)	阪神・淡路大震災
1996		10月 ごみ減量化推進国民会議、「PETボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 第5回ごみ減量化推進全国大会(福岡県、福岡市、北九州市)	
1997	1月「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン)	6月 ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10月 第6回ごみ減量化推進全国大会(宮城県、仙台市)	金融機関の連鎖的破綻
1998	6月「家電リサイクル法」公布 10月「地球温暖化対策法」公布	6月ごみ減量化推進国民会議、再生紙利用促進のガイドライン(改正)採択 10月 第7回ごみ減量化推進全国大会(兵庫県、神戸市)	

1999	7月「ダイオキシン類対策特別措置法」公布	10月 第8回ごみ減量化推進全国大会（埼玉県、浦和市）	
2000	6月「循環型社会形成推進基本法」公布 「廃棄物処理法等」の改正 「再生資源利用促進法」の改正 「建設資材リサイクル法」「グリーン購入法」 「食品リサイクル法」公布 12月「第2次環境基本計画」閣議決定	10月 第9回ごみ減量化推進全国大会（広島県、広島市）	
2001	1月 中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 4月 資源の有効な利用の促進に関する法律の施行	10月 第10回ごみ減量化推進全国大会（北海道、札幌市）	9.11 アメリカ同時多発テロ
2002	7月「自動車リサイクル法」公布	7月 第10回総会、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11月 第1回ごみゼロ推進全国大会（徳島県、徳島市）	
2003	3月「循環型社会形成推進基本計画」公表	10月 第2回ごみゼロ推進全国大会（富山県、富山市）	
2004	6月 G8シーアイランドサミット「神戸3R行動計画」小泉首相が3Rイニシアティブを提唱	10月 第3回ごみゼロ推進全国大会（静岡県、静岡市）	
2005	2月「京都議定書」発効 4月「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）発表 6月「クールビズ」開始	10月 第4回ごみゼロ推進全国大会（長崎県、佐世保市）	「愛・地球博」愛知県で開催
2006	3月「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 4月「第3次環境基本計画」閣議決定	1月「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「 <u>3R活動推進フォーラム</u> 」発足（事務局は（社）全国都市清掃会議（現（公社）全国都市清掃会議））	

		初代会長 加藤三郎環境文明研究所代表が就任 5月 2代目会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10月 第1回3R推進全国大会(愛知県、名古屋市)	
2007	5月「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6月「21世紀環境立国戦略」閣議決定 「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダム・サミット地球温暖化問題	5月 事務局が(社)全国都市清掃会議(現(公社)全国都市清掃会議)から(財)廃棄物研究財団(現(公財)廃棄物・3R研究財団)に移る 10月 第2回3R推進全国大会(福岡県、北九州市)	
2008	3月「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7月 G8北海道洞爺湖サミット	10月 第3回3R推進全国大会(山形県、山形市)	
2009		10月 第4回3R推進全国大会(千葉市)	
2010		4月 会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 11月 第5回3R推進全国大会(佐賀県、佐賀市)	
2011	8月 東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布 8月「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布	10月 第6回3R推進全国大会(京都市) 12月 (公財)廃棄物・3R研究財団設立	東日本大震災
2012	4月「第4次環境基本計画」閣議決定 8月「特定産業廃棄物特別措置法」一部改正法律公布 8月「小型家電リサイクル法」公布	10月 第7回3R推進全国大会(東京都内)	

2013	5月「第三次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10月 第8回3R推進全国大会 (栃木県)	
2014		5月 会長に細田衛士慶應大学経済学部教授が就任 10月 第9回3R推進全国大会 (相模原市)	消費税5%から8%に引き上げ
2015	11月 第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)パリ協定	11月 第10回3R推進全国大会 (福井県)	
2016	3月「特定家庭用機器廃棄物回収率目標達成アクションプラン」策定 5月 G7富山環境大臣会合 5月 G7伊勢志摩サミット	10月 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会設立 10月 第11回3R推進全国大会 (徳島県)	熊本地震
2017		10月 第12回3R推進全国大会 (沖縄県)	
2018	4月「第五次環境基本計画」閣議決定 6月「第四次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10月 第13回3R推進全国大会 (富山県)	
2019	5月「食品ロス削減推進法」公布 「プラスチック資源循環戦略」策定 6月 G20軽井沢環境大臣会合 6月 G20大阪サミット	10月 第14回3R推進全国大会 (新潟市)	消費税10%
2020	7月 レジ袋の有料化	10月 第15回3R推進全国大会 (和歌山県を延期)	新型コロナウイルス感染症拡大
2021	6月「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」公布	10月 第15回3R推進全国大会 (和歌山県)	静岡県熱海市で土石流
2022	4月「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行 9月「第四次循環型社会形成推進基本計画」の第2回点検及び循環経済工程表の策定 10月「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」及び官民連携協議会発足	10月 第16回3R推進全国大会 (オンライン・東京都内)	ロシア軍のウクライナ侵攻
2023	2月「GX実現に向けた基本方針」閣議決定	10月 第17回3R推進全国大会 (秋田県)	トルコ・シリア大地震
2024	8月「第五次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10月 第18回3R推進全国大会 (埼玉県)	能登半島地震

4. 令和6年度事業年間スケジュール

月	セミナー・シンポジウム等	連携活動、審査会、理事会等	広報関連、講師活動等
4月		令和6年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰推薦開始	・事務局通信 No.78 配信
5月		・令和6年度3R促進ポスターコンクール募集開始	・令和6年度全国都市清掃会議定時総会出席 (展示コーナーへの出展)
6月		・第19回理事会・総会 ・持続可能環境センター(3R・低炭素社会検定) 総会・運営委員会 ・散乱防止・美化キャンペーン(敦賀市)	・細田会長講演動画配信 ・スチール缶リサイクル協会「実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小学校及び中学校への支援業務」後援(~10月) ・事務局通信 No.79 配信
7月	・容器包装交流セミナー in 高松 ・プラスチック資源循環研修会 高松 ・SDGs チャレンジ 「ロスフラワー®をアップサイクルしよう」	・第1回企画運営委員会	・令和5年度3R促進ポスターコンクール展示(GEOC) ・東京都環境公社 第1回サーキュラーエコノミーサロン講師派遣
8月			・事務局通信 No.80 配信
9月		・令和6年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰審査会 ・令和6年度3R促進ポスターコンクール審査会 ・持続可能環境センター運営委員会	
10月	・第18回3R推進全国大会(埼玉)	・第17回3R・低炭素社会検定試験講習会 ・廃棄物・3R研究財団&3R・資源循環推進フォーラム年次報告会	・令和6年度建設副産物リサイクル広報用ポスター 後援 ・3R・資源循環推進フォーラム活動内容説明ポスター・パンフレットを作成

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装交流セミナーin 岐阜 ・プラスチック資源循環研修会 岐阜 	<ul style="list-style-type: none"> ・第16回 3R・低炭素社会検定試験 ・散乱防止・美化キャンペーン(出雲市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回産業廃棄物と環境を考える全国大会 後援 ・3R推進全国大会 細田会長講演動画配信
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省主催地方セミナー(兵庫県) ・3R・循環経済先進事例研究発表会 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省主催地方セミナー(福島県) 		<ul style="list-style-type: none"> ・事務局通信 No.81 配信 ・第19回容器包装3R推進フォーラム 後援
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・循環・3Rリレーセミナー ・容器包装交流セミナーin 前橋 ・プラスチック資源循環研修会 前橋 		
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回企画運営委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局通信 No.82 配信 ・3R推進地方セミナー(福島)、循環・3Rリレーセミナー、プラスチック資源循環研修会(前橋)講演動画配信

※以上の他、メールマガジン「廃棄物・3RNEWS」を月2回配信、ニュースレター「「R」でつながる」を月1回編集協力

5. 3R・資源循環推進フォーラム規約等 資料

3 R ・ 資源循環推進フォーラム規約

平成 18 年 5 月 31 日	総会決定
平成 19 年 5 月 22 日	一部改正
平成 21 年 5 月 12 日	一部改正
平成 22 年 4 月 28 日	一部改正
平成 26 年 5 月 23 日	一部改正
平成 29 年 5 月 22 日	一部改正
令和 6 年 4 月 1 日	一部改正

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 本団体は、3 R ・ 資源循環推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第 2 条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第 2 章 目的及び事業

(目的)

第 3 条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって、発生抑制 (Reduce)、再使用 (Reuse)、再生利用 (Recycle) の 3 R と資源循環の実施による循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事業)

第 4 条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 3 R ・ 資源循環に関する研鑽・啓発
- (2) 3 R ・ 資源循環に関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3 R ・ 資源循環に関する調査研究の実施・支援
- (4) 3 R ・ 資源循環に関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前 4 項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会 員

(会員)

第 5 条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入会)

第 6 条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役員)

第9条 フォーラムに、次の役員を置く。

理事 30名以内

監事 2名

2 理事及び監事は総会において選任する。

3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。

4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。

7 専任理事は、事務局を総括する。

8 監事は、フォーラムの会計を監査する。

9 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。

顧問の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

2 総会は会長が招集し、役員任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、本規約の改正、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。

3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

4 総会及び理事会は、毎年度、会計年度終了後3月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。総会及び理事会を同時に開催することができるものとする。

(総会の議決)

第12条 総会の議決は、議決について特別の利害関係を有する会員を除く会員の過半数が参加し、その過半数をもって行う。この場合、「参加」とは、予め書面又は電磁的記録によって意思表示した場合、及びWeb会議システムを利用した出席によって意思表示した場合を含むものとする。

(理事会の議決)

第 13 条 理事会の議決は、議決について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が参加し、その過半数をもって行う。この場合、「参加」とは、予め書面又は電磁的記録によって意思表示した場合、及びWeb会議システムを利用した出席によって意思表示した場合を含むものとする。

(企画・運営委員会)

第 14 条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第 15 条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第 17 条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第 18 条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を公益財団法人廃棄物・3R研究財団に置く。

2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委任)

第 19 条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成 18 年 5 月 31 日から施行する。

この規約の一部改正は、平成 19 年 5 月 22 日から施行する。

この規約の一部改正は、平成 21 年 5 月 12 日から施行する。

この規約の一部改正は、平成 22 年 4 月 28 日から施行する。

この規約の一部改正は、平成 26 年 5 月 23 日から施行する。

この規約の一部改正は、平成 29 年 5 月 22 日から施行する。

この規約の一部改正は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

3 R・資源循環推進フォーラム 負担金に関する規定

平成 18 年 5 月 31 日 総会決定

平成 22 年 4 月 28 日 一部改正

令和 6 年 4 月 1 日 一部改正

3 R・資源循環推進フォーラム規約第 7 条に基づき、次のとおりとする。

- 第 1 会員は年会費として 10 万円を納付しなければならない。
- 第 2 自治体会員の負担金は免除する
- 第 3 規約第 6 条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第 1 の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。
- 第 4 負担金は、5 月末日までに納付するものとする。

(附則)

この規定は、平成 21 年 5 月 31 日から施行する。

この規約の一部改正は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

3 R・資源循環推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年5月12日 理事会決定
令和6年4月1日 一部改正

(目的)

第1条 3 R・資源循環推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）規約第14条により、フォーラムに企画・運営委員会（以下「委員会」という。）を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附則)

この要領は、平成21年5月12日から施行する。

この要領の一部改正は、令和6年4月1日から施行する。

6. 役員一覧

3R・資源循環推進フォーラム 役員一覧(令和6年 7月時点)敬称略

会 長	細田 衛士	東海大学副学長 政治経済学部経済学科教授、 慶應義塾大学名誉顧問
副 会 長	崎田 裕子	ジャーナリスト、環境カウンセラー、全国おいしい食べ きり運動ネットワーク協議会会長
副 会 長	梶原 成元	公益財団法人廃棄物・3R研究財団理事長
専任理事	宇仁菅伸介	公益財団法人廃棄物・3R研究財団専務理事
理事	荒川 隆	一般財団法人食品産業センター理事長
理事	金高 隆一	公益社団法人全国都市清掃会議会長
理事	川上 景一	一般財団法人家電製品協会専務理事
理事	五道 仁実	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理事	山条 忠文	一般社団法人日本環境保全協会会長
理事	高岡 昌輝	一般社団法人廃棄物資源循環学会会長
理事	高野 博幸	一般社団法人日本経済団体連合会環境委員会 廃棄物・リサイクル部会長代行
理事	永井 良一	公益社団法人全国産業資源循環連合会会長
理事	藤村コノエ	NPO法人環境文明21代表理事
理事	本庄 大介	一般社団法人全国清涼飲料連合会会長
理事	三井 弘樹	一般社団法人全国清掃事業連合会会長

(理事 五十音順)

監事	金澤 貞幸	公益社団法人全国都市清掃会議専務理事
監事	鬼沢 良子	特定非営利活動法人持続可能な社会をつくる元気ネッ ト理事長

(監事 五十音順)

顧問	加藤 三郎	株式会社環境文明研究所代表取締役所長
顧問	庄子 幹雄	マサチューセッツ工科大学客員教授

(顧問 五十音順)

7. 企画・運営委員会委員一覧

企画・運営委員会委員一覧(令和7年3月時点) 敬称略 50音順

(敬称略 50音順)

浅利 美鈴	総合地球環境学研究所教授
上原 麻子	大阪市環境局事業部家庭ごみ減量課長
鬼沢 良子	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 【※委員長】
久保 直紀	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会理事 会長補佐
佐藤 勇一	川口市環境部次長兼資源循環課長
宗野 喜志	東京都環境局資源循環推進部長
高橋 宏郁	スチール缶リサイクル協会専務理事
田中 希幸	ガラスびん3R促進協議会理事・事務局長
中石 一弘	株式会社エックス都市研究所常務取締役環境エンジニアリング事業 本部長
畠中 秀人	建設副産物リサイクル広報推進会議幹事長
羽田野雅司	松本市環境エネルギー部長
日浦 朋子	公益社団法人全国産業資源循環連合会事業部長兼調査部長
星野 隆宏	一般財団法人家電製品協会環境部長
三浦 佳子	一般社団法人日本冷凍食品協会広報部長(消費生活コンサルタント)
百瀬 紋乃	日本生活協同組合連合会社会・地域活動推進部
山本 耕平	株式会社ダイナックス都市環境研究所代表取締役会長 【※副委員長】
山脇 敦	公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団調査認証チーム部長
柚山 義人	一般社団法人日本有機資源協会専務理事

8. 会員一覧

会員一覧（令和7年3月時点）自治体会員81 民間団体会員66 計147

3R・資源循環推進フォーラム 会員一覧

No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名	
自治体会員		51	横浜市	19	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団	
1	北海道	52	川崎市	20	(一社)持続可能社会推進コンサルタント協会	
2	青森県	53	相模原市	21	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット	
3	岩手県	54	新潟市	22	(一財)食品産業センター	
4	宮城県	55	大阪市	23	(公社)食品容器環境美化協会	
5	秋田県	56	神戸市	24	スチール缶リサイクル協会	
6	山形県	57	北九州市	25	石油連盟	
7	福島県	58	熊本市	26	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会	
8	茨城県	59	新宿区	27	全国環境整備事業協同組合連合会	
9	栃木県	60	文京区	28	全国牛乳容器環境協議会	
10	群馬県	61	墨田区	29	(公社)全国産業資源循環連合会	
11	埼玉県	62	目黒区	30	(一社)全国浄化槽団体連合会	
12	千葉県	63	渋谷区	31	全国生活学校連絡協議会	
13	東京都	64	豊島区	32	(一社)全国清掃事業連合会	
14	神奈川県	65	荒川区	33	(一社)全国清涼飲料連合会	
15	新潟県	66	練馬区	34	全国女性団体連絡協議会	
16	富山県	67	足立区	35	(公社)全国都市清掃会議	
17	石川県	68	葛飾区	36	(一社)全国容器循環協議会	
18	福井県	69	函館市	37	(公財)全国老人クラブ連合会	
19	山梨県	70	岩見沢市	38	電気事業連合会	
20	長野県	71	川口市	39	中間貯蔵・環境安全事業(株)	
21	岐阜県	72	船橋市	40	(一社)日本環境衛生施設工業会	
22	静岡県	73	昭島市	41	(一財)日本環境衛生センター	
23	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	74	東大和市	42	(公財)日本環境協会	
24	三重県	75	座間市【※】	43	(公財)日本環境整備教育センター	
25	滋賀県	76	大井町	44	(一社)日本環境保全協会	
26	京都府	77	松本市	45	JMIA 日本鉱業協会	
27	大阪府	78	豊田市	46	日本再生資源事業協同組合連合会	
28	兵庫県	79	東海市	47	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター	
29	奈良県	80	佐賀市	48	(一社)日本自動車工業会	
30	和歌山県	81	指宿市	49	(一財)日本消費者協会	
31	鳥取県	計81会員			50	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
32	島根県	民間団体会員			51	日本生活協同組合連合会
33	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議	1	(公財)あしたの日本を創る協会	52	(一社)日本即席食品工業協会	
34	広島県	2	アルミ缶リサイクル協会	53	(一社)日本鉄鋼連盟	
35	山口県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	54	(一社)日本バイオプラスチック協会	
36	徳島県(環境首都とくしま創造センター)	4	(一財)家電製品協会	55	(一社)日本パン工業会	
37	香川県	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	56	(公社)日本PTA全国協議会	
38	愛媛県	6	ガラスびん3R促進協議会	57	(一社)日本百貨店協会	
39	高知県	7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	58	(NPO)日本ファイバーリサイクル推進協会	
40	福岡県	8	(NPO)環境技術支援ネットワーク	59	(一社)日本有機資源協会	
41	佐賀県	9	(一財)環境事業協会	60	(一社)廃棄物資源循環学会	
42	長崎県	10	(公社)環境生活文化機構	61	(公財)廃棄物・3R研究財団	
43	熊本県	11	(NPO)環境文明21	62	(一社)パソコン3R推進協会	
44	大分県	12	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	63	びん再利用ネットワーク	
45	宮崎県	13	(NPO)グリーンコンシューマー東京ネット	64	(一社)プラスチック循環利用協会	
46	鹿児島県	14	建設廃棄物協同組合	65	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	
47	沖縄県	15	建設副産物リサイクル広報推進会議	66	PETボトルリサイクル推進協議会	
48	札幌市	16	国立研究開発法人国立環境研究所	計66会員		
49	仙台市【※】	17	ごみ減量ネットワーク	会員 合計147団体		
50	さいたま市	18	(NPO)最終処分場技術システム研究協会			

【※】仙台市及び座間市は令和6年度加入

《 3 R ・ 資源循環推進フォーラム事務局案内図 》



JR両国駅東口 徒歩1分 都営大江戸線両国駅A4出口 徒歩5分

3 R ・ 資源循環推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年次報告書

令和6年度版(2024年度版)

発行：3 R ・ 資源循環推進フォーラム

発行年月：令和7年6月

所在地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 内

TEL 03-6908-7311 FAX 03-5638-7164

E-mail：jimukyoku@3r-forum.jp

URL：http://3r-forum.jp/